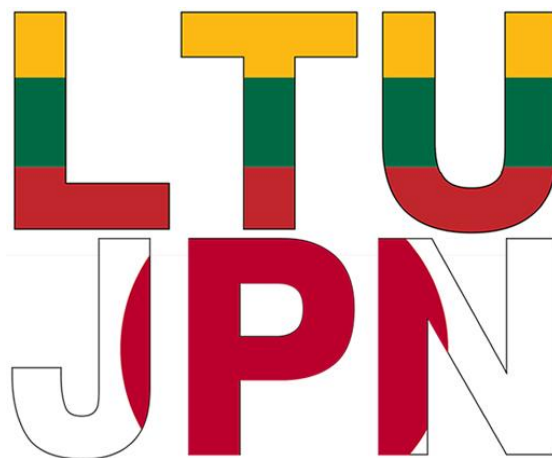


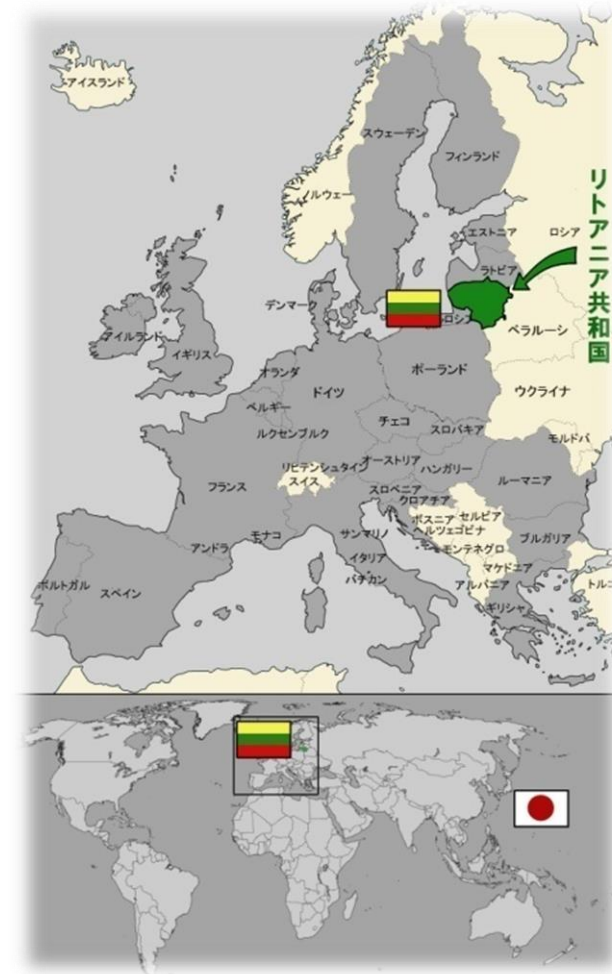


リトアニアとその医療制度について

駐日リトアニア共和国大使 エギディユス・メイルーナス
於健康医療ネットワークセミナー
2017年1月18日

リトアニアについて

- ❑ 面積::65,300 km²
- ❑ 人口::300万人
- ❑ 首都: ヴィリニウス (人口538 700人)
- ❑ 公用語: リトアニア語
- ❑ 政治: 共和制
- ❑ 民族構成(%): リトアニア人 (84.2), ポーランド人 (6,6), ロシア人 (5,8), その他(3,4).
- ❑ 宗教: ローマンカトリック(80%) 東方正教、福音ルーテル派、その他
- ❑ 通貨: ユーロ
- ❑ 地理的位置: 北欧・中欧。
- ❑ 1989年のフランス国立地理院によるとリトアニアの首都ヴィリニウスの北西24kmの地点がヨーロッパの地理的中央である。
- ❑ 国境を接する国: ラトヴィア、ポーランド、ベラルーシ、ロシア



History of Lithuania



- 1009 年 – リトアニアという国名が初めて書物(ドイツのクベドリッ グ史記)に記される
- 1253 年 – ミンドウガス大公が初代国王に着位
- 1392-1430年 – リトアニア大公国がバルト海から黒海まで領土を広げる
- 1569年 – ポーランドと同盟を結びポーランド・リトアニア合同を形成
- 1791.年05.月03日 – 合同がヨーロッパ初、世界で2番目の憲法を設置
- 1795年 – 合同が分割、ロシアの支配下に
- 1918年2月16日 – 独立回復
- 1940年 – 第一次ソビエト支配下におかれる
- 1941年 – ナチスの支配下におかれる
- 1944年 – 第二次ソビエト支配下に。50万人のリトアニア人が強制収容所へ送られ、国外追放や殺害される
- 1990年 3月11日 – 独立再回復
- 2004年3月29日 – NATOに加盟
- 2004年5月1日 – 欧州連合(EU)に加盟
- 2013 年7月1日 – 2013年度EU議長国

世界のリトアニア―国際分野での協力関係

- ❑ 国連(2007年度国連経済社会理事会議長国)
- ❑ WTO
- ❑ 欧州連合理事会
- ❑ 欧州安全保障協力機構(2011年度議長国)
- ❑ 民主主義会合 (CD) (2009-2011年度議長国)
- ❑ OECD加盟申請
- ❑ 2014 -2016年国連安全保障理事会非常任理事国)



リトアニアのミクロ経済指標

指標(%)							
年	2015	2016 見込み			2017 見込み		
		財務省	リトアニア銀行	欧州委員会	財務省	リトアニア銀行	欧州委員会
GDP 成長率	1.6	2.3	2.3	2.8	2.7	2.9	3.1
総合政府予算	-0.2	-0.8	-	-1.2	0.0	-	-0.8
総合国債総額 (% of GDP)	42.7	41.1	-	41.1	39.9	-	42.9
年間平均インフレ	-0.7	0.7	0.7	-0.6	2.2	1.8	1.8
失業率	9.4	8.0	8.0	7.8	7.1	7.5	6.4
現況収支 (% of GDP)	-0.6	-	-0.4	0.0	-	-0.8	0.1

若者の能力と才能

EU諸国で5位以内

野心的なヤングプロフェッショナル

□93%が中等教育またはそれ以上の教育を修了(EU内1位)

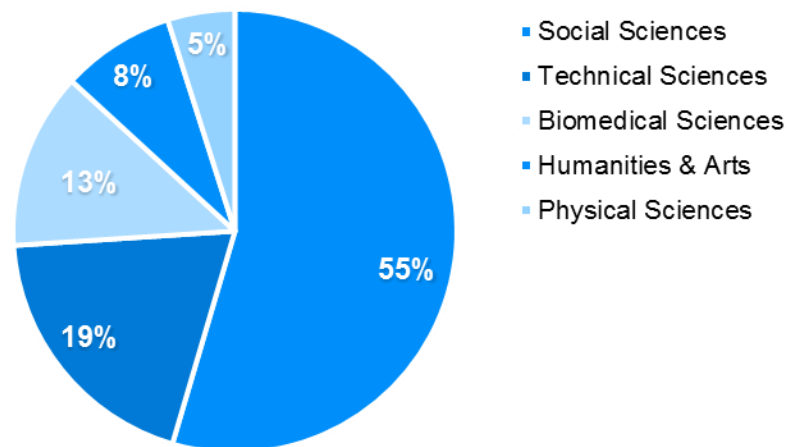
□数学、理科、工学修得者数EU内1位

□国内に22の大学:国公立15、私立7

□18%のリトアニアの若い専門家は工学、製造学、建設・構造専門(EU諸国平均の2倍)

□全学生人口の50%がサービス業界への就職が可能

STRUCTURE OF STUDENTS AT HIGHER EDUCATION 2013/2014



50% が2ヶ国語以上を話す

主な言語: 英語、ロシア語、ドイツ語、ポーランド語、スカンジナビア諸国語、南欧諸国語

80% が英語を話す



ライフサイエンス

- リトアニアのライフサイエンス分野は中東欧で最も発展している
- バイオテクノロジー、薬学研究製造分野は年率22% の成長をとげており、製造物の80%が海外に輸出されている
- 16の学術機関と15の研究開発センターを有する充実した教育環境
- ライフサイエンス分野に18 000 の研究者、100社が従事
- リトアニア政府により5つの研究バレーに4億ユーロの投資がなされている

バイオテクノロジー

- リトアニアのバイオテクノロジー産業は中東欧で最先端を行っている
- リトアニアのバイオテクノロジー研究は医薬用たんぱく質、化学、バイオ化学分野で革新的な成果をあげている
- リトアニアの発明ー癌治療薬「テバグラスチム」
世界的に知られるこの癌治療薬は既存の同効果薬に比べ2ー3割安価である
- バイオテクノロジー製品の8割が世界70カ国に向け輸出されている



レーザー

- リトアニアはフェムトセカンドレーザーの全世界シェア10%を誇る
- リトアニアで製造されたレーザー製品の86%が100カ国に向け輸出され、主要輸出先国は日本とアメリカである
- リトアニアのレーザー製造会社の主な取引先; NASA、NATO、米国防総省、イスラエル原子力研究センター、ラザフォード研究所(英)、カリフォルニア大学バークレー校、リバモア国立研究所(米)等



リトアニアの医療制度

リトアニアの医療制度についての法律

リトアニア憲法第53条: “国は、国民が疾病した場合、医療保険給付を行う。法律に基づき、医療費は無料にて提供される,,

リトアニアの健康医療制度法

2014－2015年 リトアニア国会によるリトアニア健康プログラムの決議

調剤薬についての法律

世界健康機構、欧州連合等によるその他多数の医療関連法

リトアニアの医療制度

健康省、国立健康保険財団が管轄

労働社会保障省、教育科学省やその他政府機関が携わる

GDPの6.7%が医療に支出。目標:2025年に8%

GDPの1.1%が病気予防に支出。目標:2025年に3%

2016年には健康ケア予算は2003年比2倍

10000人あたりの医師数:13510人(46.1%)

1000人あたりの歯科医数: 2 756人(9.4%)

10000人あたりの看護師数 - 22 374人(76.2%)

リトアニアの健康制度

- 初期レベル: 外来診療(メディカルセンター)
- 中期レベル: 専門医診察、総合病院、リハビリテーション
- 後期レベル: 専門病院、医療科学センター
- 85% 公立, 15 % - 私立
- 医学部: ヴィリニウス大学医学部(1781年設立)、リトアニア健康科学大学(1922年設立)
- 専門機関: 国立癌研究所、医療革新センター、遺伝子センター等
- E-ヘルスシステム: インターネットによる医療機関受診予約や医学検査
- ハイレベルの医療、他国からの視察、特に歯科学、リハビリテーション、手術分野

リトアニアの健康事情

- 平均寿命- 74, 9 歳 (2015年), 目標: 2025年に77.5歳
- 男性 – 69.9歳, 女性– 80.1歳 (性差は約10歳、2025年に8歳差まで縮めることを目標としている)
- 65歳以上の人口・・・19% (高齢化社会)
- 新生児死亡率1000人中3.9%
- 年平均医療機関受診回数・・・8.8回 (2015年)
- 1000人あたりの医療機関ベッド数7.6床 (2015年)

主な健康問題

死亡要因(2012年)

- 心臓・血管疾患・・・56.6パーセント
- 癌・・・19.5%
- 精神疾患、事故や自殺・・・8.9%
- 消化器系疾患・・・5.0%
- 呼吸器系疾患・・・3.1%
- 感染性疾患・・・1.5%
- その他・・・5.4%
- 自殺率・・・30.8%（人口10万人あたり） 目標は2025年に12%

リトアニアの健康問題

病気と死亡の主要因

- 喫煙(人口の25%が喫煙。男性34.2%、女性15%)
- アルコール摂取量(国民一人当たり年平均13 リットル、2012年)
- 悪い食習慣(ジャンクフード、肥満 18%)
- 運動不足
- ストレス

1986年チェルノブイリ原子力発電所事故のリトアニアへの影響

除染、汚染地域からの水、牛の摂取等の制限により、リトアニア国民への健康被害は特段報告されていない。7000 人のリトアニア人が事故対応にあたり、癌や貧血(遺伝)等の高い疾患者数が報告されている

リニアの健康保険制度

加入義務のある健康保険

- 健康保険税: 9 % (雇用者が3%、雇用主が6 % 負担), 担当は国立健康保険財団。出費はGDPの4.2%
- 支払い対象: 外来診療、救急処置、年間120日までの長期入院、入院患者のリハビリテーション、調剤薬払い戻し率・・・100%, 90%, 80%, 50%
- 年金受給者、失業者、18歳以下の未成年、学生は国が保障
- 健康保険モデルは普遍性(国民皆保険)、連帯性(疾病時の治療保障)に基づき設定されている

私的健康保険

DGPの2.08%の平均支出率

日本との協力関係

- 医療科学分野での協力：日本学術振興会（JSPS）とリトアニアリサーチカウンスル間の協定
- 国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）との協定
- 特定非営利活動法人Quality of Life Foundation
「医科学研究者国際活動支援協議会」（理事長鈴木裕子氏）
- 目標－医療機関や医師間での協力関係の拡大

日本とリトアニアの関係

- 1922年12月20日－外交関係樹立
- 1939年－日本総領事館がカウナスに設立、杉原千畝副領事着任
- 1940年－杉原千畝副領事が6000人のユダヤ人難民に通過ヴィザを発給、命を救う
- 1991年10月－外交関係再樹立
- 2001年－ヴァルダス・アダムクス大統領訪日
- 2005年－アルギルダス・ブラザウスカス首相訪日
- 2007年－天皇皇后リトアニア訪問

リトアニア—日本経済協力関係

相互取引高:

- EUR 87,2 million (2014年比37%増加)

対日輸出:

- EUR 48.7 million (2014年比32% 増加)

主要輸出物:

- タバコ製品 – 40%;
- 医療、獣医機器 – 8%;
- レーザー・光学機器 – 8%;
- 濃縮ミルク・クリーム – 6%;
- エスカルゴ – 5%;
- 家具・家具部品 – 5%;
- その他 – 28%.

リトアニア—日本経済協力関係

日本からの輸入:

- EUR 38.5 million (2014年比43.5%増加)

主要輸入物:

- セルロース – 18.5%;
- Equipment for semi-conductors processing – 11.4%;
- トラクター、トラック – 8.8%;
- 人工糸 – 6.7%;
- 自動車 – 5.9%.

リトアニアから日本への海外直接投資:

- なし

日本からリトアニアへの海外直接投資:

- EUR 0.47 million (製造, 未公開株式)

リトアニアでの日本



ダリア・グリバウスカйте大統領と
白石和子前駐リトアニア日本大使



アリトゥス市の盆栽家、
ケストウティス・プトカウスカス氏



リトアニアの日本庭園



リトアニア空手チーム

リトアニアでの日本

- ❑ リトアニアの主要大学2校(ヴィリニウス大学、カウナスヴィートウタス・マグヌス大学)で日本語教育が行われている
- ❑ 日本庭園: 3つ存在する。ひとつはヨーロッパ最大(16ヘクタール)規模、ひとつは現在造園中
- ❑ リトアニアで最も人気のある外国人作家は村上春樹氏。15冊がすでにリトアニア語に翻訳され、すべてがベストセラーになっている
- ❑ 空手、柔道、合気道の人気は年々増している
- ❑ 和食も人気

リトアニアでの俳句:

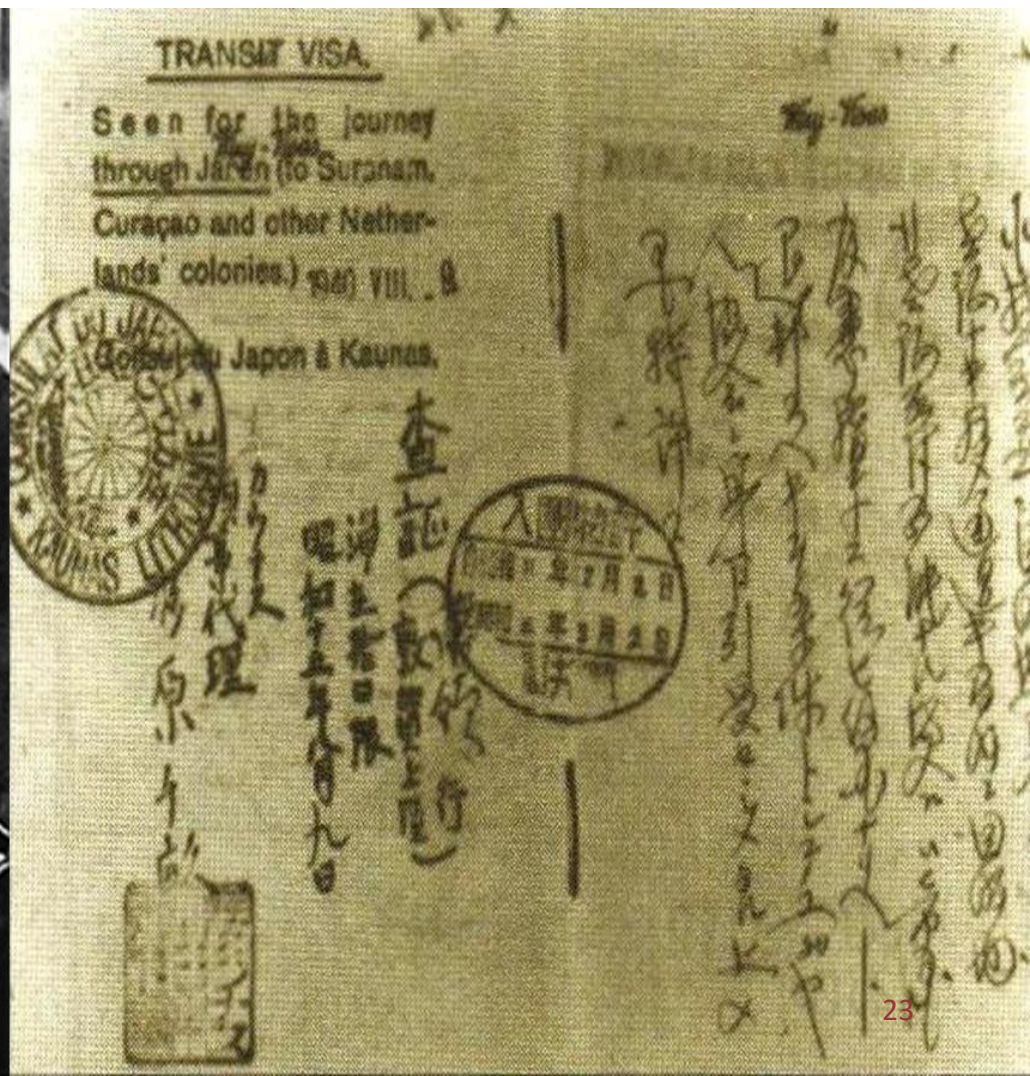
アンドリュス・ルネツカス作

*rudens vakaras
už aplyto lango
šešėlių teatras*

*autumn evening
beyond the wet window
shadow theater*

秋の夕暮
濡れた窓のむこうに
影の劇場

杉原千畝



カウナス市にある杉原博物館



杉原千畝記念碑



Clunès Sugibaro
(1900 – 1986)
atminimui

[illegible]

國際學術研討會

Tõnu Sugitaia g
univertsitets, Hlad
ministerija, Baig
1980 m., sidam
sugitaia grisoni
võid, 50 rüütu
Tas muetahano
elamusei peitk
jao kaip Vambur
Pridajastat ja a
võitaja lei pood
hõlõvõste is akas
ir Jydis.

2001 (m. 4) 4

首都ヴェリニユスの桜公園



リトアニアへようこそ



ユネスコ世界遺産



首都ビリニュス旧市街







クルス砂州



ケルナヴェ



多声音楽—スタルティネス

R. 
Kas ta - ve, se - siu - le, čio - nai pa - so - di - no? Čiū - to, jei čiū - te - le.

P. 
Čiū - te - le, čiū - te - le, čiū - to, čiū - te - le. Čiū - to, čiū - te - le.



歌と踊りの祭典





十字架作り- 十字架の丘



城、莊園



自然





オーガニックな生活



琥珀



ご清聴、
どうもありがとうございました

